

令和5年度 第2回 福岡市病院事業運営審議会 議事録

日時

令和6年2月8日（木）14:30～15:30

場所

TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール メインホールA

会議次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 会長、副会長の選出について
 - (2) 運営・施設部会からの中間報告
 - (3) 今後の進め方について

議事録

1 開会

【事務局】

令和5年度第2回福岡市病院事業運営審議会の開催にあたり、委員総数14名全員の出席があり、病院事業運営審議会規則第7条第3項に規定する会議に必要な定数である過半数を満たしていることを報告。

また、福岡市情報公開条例に基づき、本審議会は公開となる旨を報告。

2 議事

- (1) 会長、副会長の選出について

【事務局】

今回は委員改選後、最初の審議会となるので、会長及び副会長の選出をお願いしたい。審議会規則第6条第2項の規定により、会長、副会長は委員の互選となっているため、推薦をいただきたい。

<推薦なし>

推薦がないので、事務局から、改選前に引き続き、会長には平田委員を、副会長には赤司委員をお願いしたいと思うがいかがか。

<異議なし>

<平田委員 会長就任、赤司委員 副会長就任>

- (2) 運営・施設部会からの中間報告

【会長】

「議事2 運営・施設部会からの中間報告」について、同部会の部会長を務める私から報告をさせていただく。

運営・施設部会で検討を行うに当たっては、市民病院の医療機能の検討において、増床の必要性が挙げられており、そのことを踏まえなければならないところだが、現在の保健医療圏では単純な増床ができないことや再編・統合による増床についても現時点で確定しているものがないこと、また現在の診療圏を維持することが重要であることから「204床・現地」での検討から行った。

現地での整備においては、空きスペースでの「全面建替」、ローリング計画での「全面建替」と「増築・改修」の3つの手法について検討を行ったが、「空きスペースでの全面建替」は不可能であり、「ローリング計画での整備」については、工事期間、費用ともに非効率であり、また、工事期間中に医療が停止する期間があるなど、現地での整備は課題が大きく、現地以外の整備について検討を始める必要があるとしたところ。

中間報告の詳細については、事務局から説明を求める。

【事務局】

<資料3（福岡市民病院の現地での整備について）の説明>

【会長】

ただいまの説明について、ご意見やご質問をいただきたい。

【委員】

私の今までの経験では、十分な面積を確保することは必要最低限の条件であり、それに加えて、新しい医療をするためには、効率的、有効的な配置にしないといけない。しかしながら、十分な空きスペースがなければ、現に空いているスペースに配置をせざるを得なく、本来、優先すべき医療の最適な配置について、全く考慮ができなくなってしまう。そのため、やはり現地の狭いスペースで建替えるということは非常に困難だと思う。

【委員】

増築・改修では、排水管や水道管などの設備の交換がその都度必要となりコストがかかる。さらに30年経つとまたコストがかかるため、やはり建替えが一番いいと感じる。

また、現在の機材などの設置を考慮したりリフォームをするとさらにコストがかかる。

排水や電気配線も新しい機材に対応させる必要があり、増築・改修の方が電気を止めてしまう。病院は常に電気を通しておかなければならない施設であるため、やはり得策ではないと感じる。

増築・改修は、また30年後に改修した建物の建替えが必要となり、そこでまたコストがかかってしまうため、やはり建替えが必要であると感じた。

【委員】

必要な延床面積を説明したグラフでは30年間で10.5%の増となっており、平成5年を起点に令和3年との比較となっている。平成10年を起点とするともっと増えるのではないかと思うが、1床当たり100㎡とし、延床面積を20,000㎡で検討することが大丈夫なのか伺いたい。

【事務局】

1床当たりの面積については、直近で、建設されている病院の1床当たりの面積は約100㎡で建てられており、この規模で大丈夫だという判断をしている。

【委員】

現地での整備はなかなか難しいと認識している。現在の市民病院は、東区、博多区、糟屋郡の利用者が多い状況なので、利用者の方々への影響という視点も持って、現地以外での検討をしていただきたい。また、地元の方ともしっかりと協議を重ねていただいて丁寧に進めていただきたい。

【委員】

現状の充実した医療を継続しながら整備をするというのは難しく、現地以外の検討が必要と思う。

現地以外で検討を始める場合、市民、地元の方が納得をいただけるよう十分な説明をしていただきたい。また、そこで働いているスタッフも、通勤などで病院の場所が移転することによる弊害が出てくることもあると思うので、前例なども参考にしながら進めていただきたい。医療機関として市民病院が果たしてきた役割というのはとても大きいと思っており、市民病院が今の場所から遠くに移ってしまうと仮定すると、現地周辺の医療機関が救急医療の観点などからも負担が増えると思うため、そういうバランスも含めてしっかり検討を進めていただきたい。

【委員】

現場のスタッフへの配慮もしっかり考えていただきたい。

病院は地域にとって大事な組織、機関であり、病院が担う使命、役割はとても大きい。また、働いている人たちにとってもわくわくするような病院というところも、ぜひ、考えていただきたい。現地建替え、移転のいずれにしても、福岡市の星となるような希望ある病院に向けて進めていただきたい。

【委員】

災害がいつ来るかわからない状況の中で、現地建替えでは年数も経費もかかる以上、やはり他の場所でしっかりと色々なものに対応できる病院を建設して欲しいと思っている。

【委員】

福岡市の病院なので、通常の医療だけではなく、災害や感染症パンデミックなどで中核となる病院としての機能をより一層強化していかなければならない。新たな医療、福岡市で必要とされている医療を提供する上でも、現地での建替えは難しいとのことなので、今後20年先を見据えた、新たな機能を持つ病院としての開発というビジョンを加えると、更に現地での開発は難しいとなるではないか。

【委員】

詳細な分析をされており、現地での建替えは難しいということは当然だと思うが、南北の土地の買収ができれば、現地でも建替えることが可能かと思う。ただ、それは難しいだろうから、結局は移転だと思う。

【事務局】

南北の隣地には建物が建っていること、複数の地権者がいるということもあり、買収は難しいと考えている。

【委員】

他の委員も言われたように現地だと難しく、また、建替え後にも土地に余裕があった方が良くと思うので、ビジョンをしっかりと持ち、新しい医療を取り入れて、別のところで建替えることが望ましいと思う。

【委員】

今回の件で一番大切なのは医療機能部会が報告している機能を充足できるような病院を建てるとのことだと思う。今回の検討の結果、現地での建替えが困難とはっきり出ているので、あとは他の場所で新設することを前提とすると、どのようなことを考えないといけないのかを検討する時期ではないか。

【委員】

市民病院の入院患者は、糟屋郡をはじめとする福岡県の他の診療圏の患者が約 42% となっており、福岡・糸島医療圏のみで患者の受療行動を考えて良いのかというところがあるため、現実を踏まえた医療圏で考えるべきではないかと思う。

資料 3 の 1 ページ右側の新たな取組みのうち 204 床でも可能な取組みということで、感染症医療に関しても、新興感染症に機動的に対応できる施設・設備と書かれているが、実際、この機動的というのは、例えば病棟単位で感染症対応をするといった、かなり抜本的な対応が必要であり、そのような対応を 204 床という限られた病床で、一部の病棟で感染症に対応しつつ、また通常の医療も継続するということが可能なのか疑問に思った。

【委員】

現地での建替えは困難だという話は今日しっかりされているが、やはり今の規模では、今まで市民病院が果たしてきた感染症医療、高度救急医療だけでもカバーしていくには足りないだろうということも、これまで議論されてきた。

進め方として、次の建替え地がなかった場合どうするのかの議論も必要と思うが、ただ、現時点での結論として、今の医療を維持するにしても、現地では不可能ではないがかなり厳しいということには同意する。

(3) 今後の進め方について

【事務局】

<資料4（今後の進め方について）の説明>

【会長】

ただいまの説明について、ご意見やご質問をいただきたい。

【委員】

候補地選定で考慮すべき事項における建物の延床面積については、あくまでも現地建替えて検討した 20,000 m²という基準で候補地を選定するのか。それとも 20,000 m²はミニマムとして選定するのか伺いたい。また、候補地は、何丁目何番地と具体的に示すのか。それともこの辺りという程度で示すのか伺いたい。

【事務局】

医療機能部会報告書における新たな取組みを踏まえた病院規模を考えていかなければならぬため、20,000 m²に限らず、どのくらいの広さが必要なのかということを検討したいと考えている。

また、候補地を選ぶ際には、具体的な場所の選定を考えている。

【委員】

20,000 m²という広さについて、あくまでもミニマムだということに理解した。

候補地の選定に当たっては、評価比較をする周辺の医療機関や医療環境、また、交通利便性ももちろんだが、能登の地震もあったので、市民の関心としては、災害拠点病院としての機能に対する目線は高まっていると思う。

福岡市は多くの川があり、その橋がもし渡れなくなれば行けなくなるというところが多くあるので、既存の災害拠点を担っている病院との役割分担についても考慮していただきたい。

また、広い土地ということになると、探すのもなかなか難しいと思うが、市が所有している大規模な土地について、切り込んでいっていただき、学校や市営住宅なども含めて、しっかり議論していただきたいと強く要望しておく。

【委員】

令和6年度に入ってから、次回の審議会が開催されるということであるが、現在、第8次医療計画に向けて、県の方で策定作業が進んでいると思う。その中で、新興感染症の蔓延時の対応について盛り込むことになっており、特に入院医療を担当する医療機関との協定締結などの検討が進んでいると思うので、その内容がある程度形になったら、県の医療計画の中で市民病院の果たす役割というのを見せていただけたらと思う。

【会長】

他にご意見やご質問はないか。

<意見なし>

市民病院の運営や施設のあり方については、本日のご意見も踏まえながら、引き続き運営・施設部会で検討を行っていく。

閉会